

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【報告書タイトル】

定時制の高校生が国際協力を有意義なものだと感じてもらえる授業のために

【実践者】

氏名	門脇 賢吾	学校名	宮城県第二工業高等学校
担当教科等	公共	対象学年（人数）	2年 F科（13名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和7年9月22日（月）（2時間）		

【実践概要】

<p>1. 単元(活動)名 <u>「なぜ国際協力は必要なのだろうか～よりよい国際協力とは～」</u> 「公共」国際理解と国際協力の単元を元にオリジナルで作成</p>							
<p>2. 単元目標</p> <p>●単元目標</p> <p>世界と私たちはすでにつながっており、その中で生活や学びが成り立っている。だからこそ、国際協力は他人事ではなく、互いを支え合うために必要であることを学ぶ。</p> <p>●関連する学習指導要領上の目標</p> <p>国際社会における課題や日本の果たす役割を理解し、持続可能な社会づくりに主体的に参画しようとする態度を育むこと</p>							
3. 単元の評価規準	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 5px;">①知識及び技能</td> <td style="padding: 5px;">国際協力の意義を理解できる。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">②思考力、判断力、表現力等</td> <td style="padding: 5px;">国際協力の必要性や意義について、多面的・多角的に考察している。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">③主体的に学習に取り組む態度</td> <td style="padding: 5px;">他者との対話を通じて、他者の意見を参考にしながら自分の考えを深めようとしている。</td> </tr> </table>	①知識及び技能	国際協力の意義を理解できる。	②思考力、判断力、表現力等	国際協力の必要性や意義について、多面的・多角的に考察している。	③主体的に学習に取り組む態度	他者との対話を通じて、他者の意見を参考にしながら自分の考えを深めようとしている。
①知識及び技能	国際協力の意義を理解できる。						
②思考力、判断力、表現力等	国際協力の必要性や意義について、多面的・多角的に考察している。						
③主体的に学習に取り組む態度	他者との対話を通じて、他者の意見を参考にしながら自分の考えを深めようとしている。						

<p>4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】</p> <p>本単元では、まず「世界 100 人村」を通じて世界の不均衡を実感的に捉え、貧困や格差の現状を自らの問題として考える姿勢を育てる。その上で、国際協力における支援の在り方や持続可能性について理解を深める。さらに、ザンビアの事例や写真・体験談、コーヒーといった身近な題材を取り入れることで、遠い国の出来事を自分自身と結びつけ、国際協力の意義をより身近に感じられるようにする。</p> <p>また、既習の人権学習を踏まえて、日本とザンビアの状況を比較しながら「他者の尊重」の意味を考え直す機会を設ける。最終的には、日本が果たすべき役割や、これからの国際社会で必要とされる支援について主体的に意見を持ち、自分の生き方と国際協力とのつながりを実感できるようにしたい。</p> <p>従来、経済分野での国際協力の学習は地理総合の延長として説明的に終わることが多かった。しかし本単元では、海外研修や開発教育の実践を取り入れながら、生徒が「なぜ国際協力が必要か」「国際協力は自分とどう関わるのか」という本質的な問いに向き合い、公共科の目標の一つである「他者の尊重」に結び付けられる学習を目指す。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>現代社会では、人間関係が希薄になり、自己中心的な傾向が見られる。SNS のやり取りなどからも、その潮流を日々感じるができる。</p> <p>本単元では、単に国際理解を深め、国際協力の意義を学ぶだけでなく、遠く離れた国の出来事を自分ごととして考え、そこに生きる人々に寄り添おうとする姿勢を養うことを目指す。その姿勢は、身近な他者に向けるべき態度と本質的に変わらないものである。</p> <p>したがって、国際協力を「遠い世界の特別なもの」ではなく、「身近で日常的に実践できる姿勢」として捉えられるようになることが、この単元の意義である。</p> <p>【児童／生徒観】</p> <p>実施クラスは本校においては最多の14人（1人は長期入院のため欠席）のクラスであり、他のクラスよりもグループワークを行いやすく、他者の多様な考えを取り入れやすいというメリットがある。一方で、人数がいる分自分の意見を主張する生徒が一部に限られてしまうため、意見を出しやすいような環境作りが必要になる。グループワークの形式は公共の授業で何度か行ったこともあり、協力して行おうとする姿勢を持っている生徒が多い。</p> <p>事前のアンケートでは「国際協力は必要だ」と全員が思っているが、なぜ必要かを明確に説明できる生徒は少ない。</p> <p>【教材観】</p> <p>本単元では、国際社会における貧困や格差の問題を中心に、グローバル化した経済が生み出す課題や、持続可能な国際協力の在り方を学ぶ。教材としては「世</p>
--	---

	<p>界100人村」や「ザンビアの写真・体験談」など、身近で具体的な題材を用いることで、生徒が抽象的な国際問題を自分事として捉えやすくする工夫がされている。また、DEAR教材や映像資料、カード活動、ダイヤモンドランキングなど、体験的・参加型の学習素材を組み合わせることで、知識の習得にとどまらず、感情や価値観に訴えかける学びを実現することができる。</p> <p>このように、本単元の教材は「遠い世界の問題」を「自分とつながる現実」として考えられるように設計されており、国際協力を通じて公共の目標である「他者の尊重」を体感的に学ぶ契機となる。</p> <p>【指導観】</p> <p>実施クラスは本校においては比較的人数が多く、他者の多様な考えを取り入れやすい一方、意見を発信する生徒に限られる傾向がある。そのため、発言が得意な生徒に偏らないよう、ホワイトボードソフトやカード、ランキング活動などを活用し、「誰もが意見を表明できる場」を保障することが重要である。</p> <p>また、生徒は「国際協力は必要だ」と考えているものの、その理由を具体的に説明できない段階にある。したがって、授業の前半では「格差の実態」や「適切な支援の条件」に気づかせ、後半では「ザンビアの事例」や「支援の在り方」を自ら考える流れを設けることで、理解を深めつつ主体的な意見形成へと導く必要がある。</p> <p>最終的には、生徒が「国際協力は自分の生き方にどう関わるのか」という問いに自ら答えられるようにし、国際協力を「知識」ではなく「価値観」として捉える授業を目指す。</p>
--	--

5. 単元計画（全 7 時間）

時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	『グローバル化する経済』 ★自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす問題に気づく	一斉授業 ・比較生産費説のワークを通して、貿易のメリットを学ぶ。 ・「カカオ農家の現状」の動画を見て、貿易による不均衡が生じていることを知る。	・教科書、プリント ・カカオ農園の動画
2	『世界の不均衡を感じよう』 ★世界の国の不均衡を肌で感じ、公正な判断ができるようにする	アクティビティ（世界100人村） ・「世界の言語でこんにちは」「大陸ごとに分かれてみよう」「富の分配」の活動を行う。他者との意見の共有も行き、振り返りシートを記入する。	DEAR 開発教育教材 「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら第7版」 ・感情で振り返る振り返りシート

3	<p>『国際社会における貧困や格差』</p> <p>★適切な支援とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに合っていること ・単発ではなく、長期的に活用できること <p>この2点を理解して次の学習につなげる。</p>	<p>一斉授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カカオ農園の動画を振り返り、支援の方法、視点がいくつもあることを知る ・ユニクロの古着回収プロジェクトを題材にして、ニーズのない所への支援問題について考え、適切な国際支援とは何か考える。 ・カカオ農家への支援としてダイヤモンドランキングを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カカオ農園の振り返りスライド ・ユニクロ古着回収写真、ガーナに捨てられた古着の写真 ・カカオ農園への支援ダイヤモンドランキングシート
4	<p>『ザンビアの光と影』</p> <p>★ザンビアの写真や体験談、コーヒーからアフリカとの心の距離を近づける</p> <p>★既習の人権について日本とザンビアの違いに気づく</p>	<p>フォトラーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアクイズを行い、何の写真かを考えることで、日本との共通点、相違点に気づき、ザンビアに対する偏見を減らす。 ・既習の「生存権」「環境権」などに触れ、ザンビアの暮らしで守られていないことに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアの写真 ・ワークシート ・ホワイトボードアプリ「ふきだし君」
5 6 本時	<p>『世界のちがいから自分の価値観に気づこう』</p> <p>★カード学習から自分と他者の価値観のちがいに気づく</p> <p>★途上国が多様な支援を必要としていることに気づく</p>	<p>カード学習（ちがいのちがい）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアと日本の生活環境・文化の違いを示したカードを使用し、あっているちがい、あってはいけないちがいについて話し合いながら決める。グループごとの判断の違いにも気づき、そこで感じたことを振り返りシートに記入する。 ・課題の掲示 「井戸が壊れた村に対して、日本（私たち）が行う適切な支援とはなんだろうか？」 現地 NGO、村人（積極否定派）、村人（消極否定派）、現地 JICA スタッフの意見を載せたワークシートを読み、課題の状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちがいのちがいカード（13枚） ・ちがいのちがい振り返りシート ・井戸ワークシート ・井戸の写真
	<p>『これからの日本が行う支援を考える』</p> <p>★ザンビアが直面している課題を自ら考えることで、国際協力を身近なものにする</p> <p>★国際協力の考え方が自分の生き方に繋がる実感を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題についてダイヤモンドランキングを作成する。（個人→グループ） ・グループごとに発表をしてちがいを共有する。 ・まとめ（一斉授業） <ul style="list-style-type: none"> ・支援は寄り添う姿勢が基本 ・自分とは関係ないと思っていたこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤモンドランキングワークシート（個人用、グループ用） ・振り返りシート

		<p>が実は関係あることに気づいてほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアの村人に寄り添ったように、隣のクラスメイト、家族にも寄り添ってほしい ・振り返りシートの記入 	
7	<p>○国際社会のこれから（人口問題、環境問題）</p> <p>★これから起こる世界の課題に対して主体的に自分の意見を持つことができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これから起こる人口問題、環境問題について資料を読み取りながら考える。 ・「なぜ国際協力が必要か」という問いに対して自分なりの考えをまとめる。（学びの地図） 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・学びの地図

<p>6. 本時の展開（5，6時間目）</p> <p>本時のねらい：カード学習を通じて自分と他者の価値観の違いに気づき、途上国が抱える課題には多様な支援の形が必要であることを理解する。そのうえで、ザンビアの具体的な状況を手がかりに、日本がどのような支援を行うべきかを自ら考え、国際協力を自分の生き方と結びつけて捉える力を養う。</p>			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
<p>導入 (10分) 5分 5分</p>	<p>1時間目 【一斉授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業で掲示した「チャーチサービス」について日本とザンビアの違いを再確認し、これは「あっていい違い」なのか「あってはいけないちがい」なのか問いかける。 ・本時の課題を掲示し、ちがいのちがいカードを準備する <p>本時の課題</p> <p>「多様な支援の方向があることを知り、自分と他者の価値観の背景を考えられるようになるう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にグループ（4人×3）の形に机を整えておく。 ・グループごとに意見を交換させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業スライド ・ちがいのちがいカード ・カード置き場ワークシート（A3） ・気持ちから振り返る振り返りシート
<p>展開 (30分) 10分</p>	<p>【グループ活動】</p> <p>① カード学習（ちがいのちがい）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザンビアで感じた“ちがい”が書かれた13種類のカードを配布し、グループで相談しながらそれぞれを「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらとも言えない」の3つのシートに分けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あっていいちがい→支援不要 ・あってはいけないちがい→要支援 <p>という理解も掲示し、国際協力の視点を持たせる。</p>	

10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとになぜこのような結果になったかを発表する。 ・ 必要な支援の価値観は人によってちがひ、なぜそう考えるかを共有しあう対話が重要だということを確認する。 		
10分	<p>【一斉授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の揭示 <p>ザンビアの村の井戸に関する写真と説明を行い、本時の課題を伝える。</p> <p>本時の課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「井戸が壊れた村に対して、日本（私たち）が行うよりよい国際協力とはなんだろうか？」</p> </div>		
<p>展開</p> <p>(25分)</p>	<p>2時間目</p>		
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケースメソッド「井戸が壊れた村」を各個人で読んで状況を把握する。 	<p>現地 NGO、村人（積極否定派）、村人（消極否定派）、現地 JICA スタッフの4つの視点からケースを捉え、考えを深める。</p>	<p>ケースメソッド 「井戸が壊れた村」</p>
5分	<p>【グループ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な支援の方法を揭示し、重要性ごとにダイヤモンドランキングを個人で作成する。 		
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ できたところまでの考えをグループで共有し、グループで1つのダイヤモンドランキングを完成させる。 		<p>井戸が壊れた村への支援ダイヤモンドランキングシート</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに発表をしてちがひを共有する。 		
<p>まとめ</p> <p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ <p>教員からこれまでの活動を通して感じてほしいことをまとめて伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本に流通しているサーモンの約8割はチリ産だということを示し、チリのサーモンはJICAの技術援助でできたことを知り、国際協力がそのまま国益となることも示す。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界情勢と日本が繋がっていることが分かるスライド ・ ザンビアと日本が銅で繋がっていることが分かるスライド

<p>～想い～</p> <p>国際協力は、特別なことではなく、身近な人を大切に作る心と同じところから始まる。実際、世界は貿易でつながっており、私たちの豊かな生活や学びは多くの人々のおかげで成り立っている。例えば電気工事の練習で当たり前のように銅線を使えるのも、世界の資源や人々の働きがあるからこそである。そのことに気づき、感謝や思いやりの心を身近な関係から世界へと広げていくことが、国際協力につながっていく。</p>		<p>なぜ国際協力は必要かを答える 振り返りシート</p>
<p>・振り返りシートの記入 「なぜ国際協力が必要なのか」 「国際協力が自分の人生・生き方にどう関わるか」という問いについて自分なりの答えを持つこと</p>		
<p>7. 本時の振り返り</p> <p>振り返りの主な設問</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 残った気持ち (2つ選択): 16種類の感情(「感動した」「心配だ」「もやもやした」「かわいそう」など)から2つを選択する形式。 2. 気持ちの理由: 選択した気持ちになった具体的な理由や原因を記述。 3. 国際協力の必要性: 「国際協力をすることは自分にとって必要だと思いますか?」について、(必要・不必要)を選択し、その理由を記述。 4. 学びと人生への応用: 授業全体を振り返って学んだこと、自分の人生に活かしたいことを記述 		
<p>8. 学習方法及び外部との連携</p> <p>・「ちがいのちがい」「ダイヤモンドランキングシート」などグループで意見の出しやすいツールを使用した。</p>		
<p>9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内での研修成果報告会の実施 ・宮城県公民部会への授業実践提供 		

【自己評価】

<p>10. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力の考え方≒良好な人間関係形成につながることを例に、国際協力を生徒にとってどれだけ身近なものとするか注力した。 ・人数が少ないことで、世界の格差を実感できるようなワークができなかった。 ・グループワークの際に生徒が安易に判断を下さないような仕組みづくり、声掛けをするかに苦心した。
------------------	--

11. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体で各時間の振り返りシートの記入の時間が5分程度しか取れず、宿題にしまったことで、授業時に感じたものが薄れてしまったと感じている。50分授業であれば10分程度の振り返りの時間は確保可能だった。 ・授業者の伝えたい思いが先行してしまい、生徒が自由に国際協力について考える時間が少なかったため、グループでの振り返りの時間を設けたほうが良かった。 ・進学校で実施する場合には教科書の内容から離れず、今回の教材を精選して単元の導入の形で行う必要がある。
12. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で学んだ開発教育の教材は生徒たちが意見を出しやすい形になっており、活発な意見交換がみられたことから、開発教育に学力は無関係と感じた。 ・「井戸が壊れた村」のケース学習について、それぞれの立場の意見を簡単で分かりやすい形式にしたことで、生徒の話し合いの中でその知識が活発に使用されていた。 ・振り返りシートによると、国際理解の考え方が人間関係の構築にもつながる点は多くの生徒に伝わったようだ。
13. 学びの軌跡 (児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど)	<p>本授業を通して、生徒たちの感情や考え方に明確な変化が見られたと感じた。最初は貧困の現状に対して「かわいそう」「悲しい」といった同情的な感情を示していたが、学習を進めるうちに「どうしてこうなるのか」「本当にこの支援の仕方でのいいのか」といった問題意識へと変化していった。特に「井戸の支援のお金が村のえらい人にばかり渡っているのではないか」といった意見や、「村が自立するためにはどうすればよいか分からない」という声が多く聞かれた。これらの反応から、生徒たちが問題の表面的な悲しさだけでなく、その背後にある構造的な課題を考えるようになったと感じた。</p> <p>また、国際協力についての捉え方にも変化が見られた。当初は「困っている人を助けてあげる」という上からの視点が多かったが、学びを通して「お互いさま」「相互に支え合うことが大切」といった考え方へと変わっていった。「日本も困った時には助けをもらうことがある」「世界全体が困った時に助け合うことが大事だ」といった意見が挙がり、協力を対等な関係として捉える姿勢が育っていると感じた。さらに、「国際協力によって日本の経済も支えられている」「安く物を輸入できたり、日本人の仕事が増えたりする」といった発言もあり、生徒たちが国際協力を「遠い国の話」ではなく、「自分たちの生活と繋がる現実的なこと」として理解していることが分かった。</p> <p>行動面でも変化が見られた。学習後の振り返りでは、「フェアトレード商品を買いたい」という具体的な行動目標を挙げる生徒が多く、「自分の買い物で世界を少しでも良くしたい」と考えるようになっていた。これは、学びを自分の生活に引き寄せて考え、実践しようとする意欲の表れだと感じた。また、「一時的な支援ではまた壊れてしまうので、長い期間の支援が必要だと思った」という意見もあり、問題解決には時間がかかること、そして持続的な関わりの大切さを理解している様子が見られた。こうした意識の変化は、生徒たちが国際理解教育を通じて「共に生きる」視点を身につけ始めた証だと感じた。</p>

14. 授業者による 自由記述	<p>今回の開発教育では、教材作成の時間が一番楽しく感じられました。生徒の顔を思い浮かべながら、「こんな反応をしてくれるかな」と想像しつつ作る授業は、初任の頃以来の新鮮な感覚で、どこか懐かしさすら覚えました。</p> <p>教員になって12年目を迎える今、授業が一辺倒になったり、思いつきで進めてしまったりすることもありました。ある程度の授業は準備を最小限にしても形になりますが、その反面、「何か物足りない」と感じる事が多く、授業の楽しさを見失いかけていたのだと思います。</p> <p>そのような中で、今回先生方と共に授業をつくり上げる経験ができたことは、本当に貴重でした。事前・事後研修、現地での体験を通して、多様な視点や具体的な工夫を学ばせていただき、自分の教員としての幅が広がったと実感しています。</p> <p>この経験を糧に、原点に立ち返りながら、教材づくりそのものを楽しんでいきたいと思います。改めまして、これまでの温かいご指導とご協力に、心より感謝申し上げます。</p>
--------------------	---

参考資料：認定NPO法人開発教育協会DEARの教材を使用した。「ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら [第7版]

授業資料：

①ケースメソッド資料

ザンビアで出会った井戸が壊れた村のレポート

門脇 賢吾



教師海外研修 5 日目、私たちは首都ルサカから約 200km 離れたモンゼ近郊の小さな村を訪れました。そこは電気も水道もなく、自給自足の生活を送る人々が暮らしていました。もちろん学校も病院もありません。強い乾季のある土地では農作物も育てにくく、お金を稼ぐ手段はわずかに炭を売るくらいしかありません。トイレは地面に穴を掘っただけ、お風呂は布で囲った場所で水を浴びる程度。首都や日本とは全く違う生活の現実に圧倒されました。

村で最後に訪れたのは、この村に一つだけある公共の井戸でした。村人たちは歌やダンスで私たちを歓迎し、井戸が人々の憩いの場であることを感じました。しかし、その井戸は数年前から壊れたまま使えないといいます。そのため、村人たちは村長が個人で作った井戸から水を分けてもらっており、その代金として毎月 10 クワチャ（日本円で約 60 円）を払っているようでした。

現地で水に関わる支援を担当する NGO スタッフが声を張り上げて訴える一方で、村人や JICA スタッフの表情は複雑で、それぞれ異なる想いを抱いているように見えました。

この場にいた人々は、どんな気持ちで井戸を見つめていたのでしょうか。そして、この村にとって本当に必要な支援とは何なのだろうか。私には答えが出せずにいました。



現地 NGO 代表カウンダさん

今、村人たちが頼っているのは、村長が持つ個人の井戸です。このままでは、トラブルが起きた時に村全体が困ってしまうことに、まだ気づいていないようです。

実は、1人あたり月 20 クワチャ(日本円で約 120 円)を貯めれば、壊れた公共の井戸は修理できます。その場しのぎの生活ではなく、長期的な視点を持って、自分たちで行動を起こしてほしい。

私たちが求めているのは、与えられるのを待つのではなく、自らの手で未来を切り開くという意味です。この村が抱える問題の解決策は、すでに彼らの手の中にあるのです。



この村に住むバネッサさん

正直、なぜここに集められたのかよくわからない。今は優しい村長の井戸を使わせてもらって、問題なく生活できている。

それに、もともと自給自足のこの村で、あと 10 クワチャをどうやって稼げばいいというのだろうか？ 家族と一緒にいられる今の生活を、私は幸せだと感じている。

この子のお兄ちゃん(16 歳)は学校に行かずに、ゴミ山で稼いだお金を家に入れてくれる。そのおかげで水も手に入っているのだ。

ところで、一緒にいるアジアの人たちは、いったい私たちに何をしてくれるの？



この村に住むジョージさん

カウンダさんの言うことは頭では理解している。確かに、村長にお金を払って水を分けてもらう今のやり方は、いつまでも続けられるものではない。村長の機嫌を伺うのも正直大変だ。

けれども、日々の暮らしで精一杯で、井戸を直す余裕まではとてもない。しかも、直してもまた壊れた時の費用を出せるとは限らない。そう考えると、そのためにお金を貯めるよりも、この子を炭を売る仕事に出すのではなく、学校に通わせてあげたいと思ってしまう。



現地 JICA スタッフ 齋藤さん

この村には衛生面で多くの課題がある。しかし、村人に話を聞くと「特に困っていない」と答える人が多い。けれども、本当にこのままで良いのだろうか。厳しい生活に慣れてしまっていることや、他の暮らしを知らない経験の少なさが、「今幸せだ」という言葉につながっているのではないかと感じている。

たとえ井戸を直しても、また壊れた時にどうするのかを考える必要がある。

果たして、この村にとって本当に意味のある支援とはどのようなものなのだろうか。

②ダイヤモンドランキング（井戸が壊れた村）

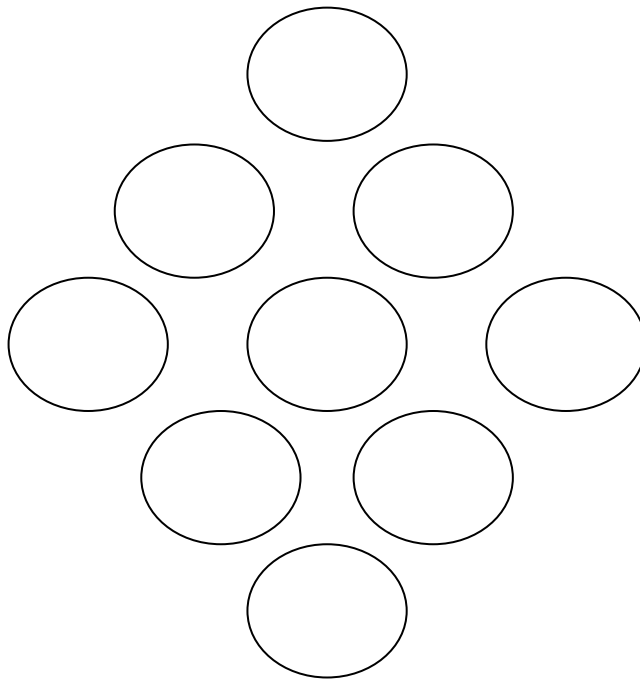
考えてみよう — 井戸が壊れた村のために

名前 _____

以下に井戸が壊れた村の生活を改善するための取り組みとして、9つの方法が記されています。

「ザンビアで出会った井戸が壊れた村のレポート」を読んで、これらの行動の順位付けをしてみましょう。一番有効なこと、最初にすべきことを一番上の○の中に記入し、次にすべきことを2段目に、以下、最も遅くて良いこと、それほど効果が望めないものを一番下の○に記号で書き入れてください。

- A 井戸の修理とポンプの交換
- B 病気の予防知識の普及と簡易診療所設置
- C ソーラー発電スタンド設置と通信技術の指導
- D 野菜や作物を育てるための道具の提供と栽培技術の指導
- E 子どもたちのための学習用具の配布と教育ボランティアの派遣
- F 他の村の成功事例を学ぶための研修会開催
- G パンや炭を焼くための共同窯の設置とそれを売するための指導
- H 子どもたちを近くの都市にある小学校へ通わせるための費用を全額補助
- I 井戸の修理技術について村人へ教育



そう考えた理由

③ちがいのちがいカード




日本のとしお君は日曜日の午前中は部活動でバスケットをする。
ザンビアのダンテ君は日曜日に家族で教会に行く。



日本人は洗濯機で洗濯をする
ザンビア人は手で洗濯をする



日本の学校は1人につき机が1つ与えられている。
ザンビアの学校では5人で2つの机を使う。



日本は、蛇口をひねると飲み水が出る。
ザンビアは、井戸から水をくむ。



ザンビアではシマを手で食べる。
日本ではお米をはして食べる。



日本ではトイレは水で流す
ザンビアの地方ではトイレは穴をほって埋めている



ザンビア国内で支援が入っている学校は理科の実験をする
支援が入っていない学校は理科の実験は黒板で説明する



ザンビアのリリアンは11歳で結婚する。
日本のあかねは11歳のときに、学校で友達と遊んでいる。



日本はゴミを分別し、そのゴミは焼却炉に集められる。
ザンビアはゴミは全部まとめて一か所に埋め立てる。



ザンビアでは13歳のケビン君は医者を目指して学校で勉強している
一方、13歳のエマニエル君は学校に行かずにさとうきびを売っている



日本では呼べば救急車が来る
ザンビアでは救急車が走れる状態であれば来る



日本のパンパースのパッケージには日本人の赤ちゃんがうつっている。
ザンビアのパッケージにはさまざまな人種がうつっている。



日本のこうへい君は電気をつけて夜遅くまでゲームをしている。
ザンビアのマバロ君は、暗くなる前に夕飯を食べて寝る。

Blank space for notes.

Blank space for notes.

Blank space for notes.

あっていいちがい

あってはいけないちがい

どちらともいえない

④生徒振り返りシート

2. 本日をふりかえって、どんな気持ちが残っていますか、2つ選んでください。

感動した	うれしい	ほっとした	くやしい
楽しかった	はずかしい	心配だ	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	情けない
悲しい	腹が立つ	かわいそう	もやもやした

3. なぜそのような気持ちになったのか、何がそのような気持ちにさせたのかを短文にまとめましょう。
選んだ気持ち 理由

・心配 自分まで頑張ろうと言う人と来たからには何を
・ ほっとした 自分がいかに村の意見が割れているから

4. 「国際協力をすることは自分にとって必要だと思いますか？」その理由も教えてください。

(必要・不必要)

理由 世界全体が助け合いによって平等に近づくと考えたから
自分にとって必要だと思う理由は輸送・乗入によって物価が安くなった
り専らグローバル化して職種が増えるということです。
→ 他国のことを知らなければ差を感じず争いをしようなどと思わない
自分にとって必要だと思うのは自分より恵まれている人から初めは感謝
とある風潮

5. 今回の国際協力の授業全体を振り返って学んだこと、自分の人生に活かしたいことをまとめましょう。

授業を振り返って思ったことは、ザンビアの中でも発展しているルカカなどは
自国の中にこんなに差があることに何となく思っているような状態
という事です。全ての善い方々でザンビアを作っているというスローガン
と掲げているのでより良くなりました。(ONE ZAMBIA, ONE NATION)
自分の人生で活かしたいことは、ジコです。(ありがとう)

2. 本日をふりかえって、どんな気持ちが残っていますか、2つ選んでください。

感動した	うれしい	ほっとした	くやしい
楽しかった	はずかしい	心配だ	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	情けない
悲しい	腹が立つ	かわいそう	もやもやした

3. なぜそのような気持ちになったのか、何がそのような気持ちにさせたのかを短文にまとめましょう。
選んだ気持ち 理由

・ほっとした NGOの人たちがきちんと言ってくれてた。いてほしかった。
・楽しかった ぐるぐるぐる、他の班のを見られて嬉しかった。

4. 「国際協力をすることは自分にとって必要だと思いますか？」その理由も教えてください。

(必要・不必要)

理由 異文化の国際協力をする事でザンビアの人が貧乏な日本を助けてもらって
いることがあるから。日本もそれによってお返しに助けようと思う。

5. 今回の国際協力の授業全体を振り返って学んだこと、自分の人生に活かしたいことをまとめましょう。

授業で聞くところから、これだけ今更でよく理解できるから町とかで見かけた
とほっとした。この中で協力したと思えた。アフリカで商品を買った。少しは
お金の経路をわかってきた。お金の流れはいいと思う。

2. 本日をふりかえって、どんな気持ちが残っていますか、2つ選んでください。

感動した	うれしい	ほっとした	くやしい
楽しかった	はずかしい	心配だ	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	情けない
悲しい	腹が立つ	かわいそう	もやもやした

3. なぜそのような気持ちになったのか、何がそのような気持ちにさせたのかを短文にまとめましょう。
選んだ気持ち 理由

・楽しかった 色々な話を聞けるのが楽しかった
・かわいそう 友達に悪い事で自分がいかに悪いのかを知らなかった

4. 「国際協力をすることは自分にとって必要だと思いますか？」その理由も教えてください。

(必要・不必要)

理由 色々な必要とするものを協力していき、色々な国で困っている人々を助けていけるから。授業を通じて色々な国や文化を知ることができ、互いの
国が困る時に必要になるから。

5. 今回の国際協力の授業全体を振り返って学んだこと、自分の人生に活かしたいことをまとめましょう。

今回の授業で世界中で困っている国々から、沢山の国々から支援を受けていることを
知ることができた。困っている国々から支援を受けていることを知ることができた。
困っている国々から支援を受けていることを知ることができた。困っている国々から
支援を受けていることを知ることができた。

2. 本日をふりかえって、どんな気持ちが残っていますか、2つ選んでください。

感動した	うれしい	ほっとした	くやしい
楽しかった	はずかしい	心配だ	がっかりした
勇気を得た	しかたがない	わくわくした	情けない
悲しい	腹が立つ	かわいそう	もやもやした

3. なぜそのような気持ちになったのか、何がそのような気持ちにさせたのかを短文にまとめましょう。
選んだ気持ち 理由

・もやもやした 私たちはどのような支援をすればいいのかを悩まされた。
・かわいそう 学校に行きたくていけないことばかりかわいそうに思っていた。

4. 「国際協力をすることは自分にとって必要だと思いますか？」その理由も教えてください。

(必要・不必要)

理由 世界は協力し合うことでやっていけるんだということに
気づいたからです。自分も協力しているということに
気づけるきっかけにするため。

5. 今回の国際協力の授業全体を振り返って学んだこと、自分の人生に活かしたいことをまとめましょう。

自分たちも他国からの支援を受けて生活しているということに
よく知り、少くも他国により感謝しなければなら
ないなと思いました。苦悩している人達は世の中にたく
さんいてその人達を助けなければいけないとおも
いました。

⑤授業中の写真

